日本基督教団 新横浜教会月報　2023年3月12日(第189号)

鶏(けいめい)鳴

〒221-0864
横浜市神奈川区菅田町2851
(電話 045-473-7191)

聖書の言葉

「主を畏れることは知恵の初め」

聖書（箴言１章７節）

牧師　河合裕志

聖書は全部で 66 の書が合わさって一つの本になっている。その中に「箴言」（ミシュレー）がある。これは「格言」とも訳せる。それは、人生いかに生きるべきかについて簡潔に言い表わした古人の言葉。そうした言葉がこの箴言には３１章にわたって満載されている。これは特に信仰を持たない人でも一読すれば大いにタメになるというもの。

これは「ソロモンの箴言」とあり紀元前１０世紀に活動したイスラエルの王ソロモンの作とされている。確かに彼は知恵に富んだ王として知られるけれどこの箴言全部を書いたとは今日認められていない。彼の筆になるものも相当あるけれどそうでないものもある。彼によらないものは別の賢者が著した。

１章２節以下にはこの箴言を書いた目的が種々述べられている。①これは知恵と諭(さと)し、分別ある言葉を理解するため。②正義と裁きと公平に目覚めるため。③未熟な者に熟慮を教え、若者に知識と慎重さを与えるため。④賢人に更に説得力を加え、聡明な人に指導力を増すため．．．。誠にどれも望ましい。身につけたいものばかり。

この中で②についてソロモンに即して見てみる。彼がいかに知恵にすぐれ正しい裁きを行なったかの実例。～二人の遊女が同じ家に住んでいてほとんど同じ時期に出産。ある晩のこと遊女Ａは添い寝の赤ん坊に寄りかかり窒息死させてしまう。これをＡは、Ｂが死なせた子を私のところに寝かせた、と言ってソロモン王に訴えた。Ｂは当然生きている子が私の子だと主張。そこで王は剣を持って来させ生きている子を半分に切り裂いて半分ずつをＡとＢに与えるように命じる。この時Ｂは「この子を生かしたままこの人にあげてください。この子を絶対に殺さないでください」と言った。Ａは「裂いて分けてください」と。王は両者の反応ぶりを見てこの子はＢのものと判決を下す．．．。（列王記上３章）。

さて７節に「主を畏れることは知恵の初め」とある。この言葉は箴言に１３回も出ていてこれが本書の中心的な考え方であることがうかがわれる。「知恵」（ホクマー）は社会で賢く生きて行くための知識とかその時々に応じて的確な判断を下せる能力といったもの。先の①～④はこの知恵に含まれると言ってよいかも。そしてこの知恵の「初め」、出発点は主（神）を畏れる、主の意志に従うことだよ、と。その意志は主を愛し（礼拝し）、隣人を愛すること。いよいよわたしたち、主を畏れつつ歩んで行きたいもの。

集会案内

日曜礼拝：午前 10 時 15 分、夕拝：午後 6 時
子どもの教会：日曜日午前 9 時
中高青年会　：日曜日礼拝後
聖書を学び祈る会：水曜日午前 10 時
牧師面談：水曜日午後 1 時～7 時